第6回びわ環サークル活動報告　　(2016年3月27日)

表題	**国際開発と環境保全における蜂蜜の役割について**	日時	2016年3月19日(土)　10:00～11:30　曇
参加者 敬称略	事務局：青木豊明 35期：冨田豊（記）・西山克己（写真） 36期：丸林浩二・服部清志・高島成弘・東谷明彦 36期：藤岡純一・川尻耕生 38期：澤九麻男 一般参加者：9名　　総計19名		
講師	**ハニールネッサンス代表の米川安寿さん(同志社大学大学院　研究生)** http://honeyrenaissance.com/index.html		
場所	大津市立木戸公民館(大津市役所北部支所)3階第三会議室		
参加費	1000円(蜂蜜代500円、残り講師代と部屋代)		

YOUTUBE　https://www.youtube.com/watch?v=yBChuOGaTZg

(はじめに)

冒頭、青木先生より、興味ある話のため、近場の人にもご参加お願いした。レイカディアの皆様にもご検討いただきたい旨の発言がありました。

(米川先生の講義)

ハチミツは未来にとって大きな役目があります。

ミツバチは受粉の手伝いや蜜蝋、蜜蝋にオイルをいれて化粧品、樹液（プロポリス）からは薬、ローヤルゼリーは体を活性化するなど素晴らしい仕事をしている。

ミツバチクイズでは「ミツバチは我々食料のどれだけを受粉しているのでしょうか？」、「受粉している我々の食べ物には何があるか？」などのクイズや効果効能についての説明があった。

[効果効能]　ポイント1：糖分がすぐに体に吸収される分解状態、ポイント2：ビタミンミネラルが活性状態、ポイント3：補酵素効果が期待できる、ポイント4：カラダの抗酸化

[嬉しいオマケ] ポイント1：花の種類によって無限の味わい、ポイント2：美容にとっても効果的、ポイント3：バリエーション無限の蜂蜜酒、

ポイント4：**地球の花と緑を守って壊さない。**

もらうだけでいいのか？

はちみつにできること－世界に樹を植えて育てること。

～持続可能な産業としての養蜂の役割　SDGｓ（持続可能な開発目標）**の時代を～**

「ハニールネッサンス」は販売流通業として、お客様とネパールなどの海外の生産者の３者が連携し、互いに、はちみつがなければ生計が成り立たたない仕組みとなっている。
生産するためには樹が無ければならない。はちみつを造らないといけない。花が咲かないといけない。お互いの必要性で「花と緑の保全」にアクションを起こさなければならない。又、お客様も、間接的においしいはちみつを食べながら世界の自然環境に繋がっていくようになる。こういうサイクルを実践していきたい。

これまでの世界の養蜂を通した取組
国連開発計画（UNDP）・国連環境計画（UNEP）
UNDP は、紛争後の復旧及び弱者の救済の方策として養蜂を採用。
UNEP は、持続可能な産業育成の一環として養蜂を採用。
イギリスの NGO は持続可能な産業として養蜂を採用し、主としてアフリカ諸国の貧困撲滅に採用し、各地の伝統的知識や土着ミツバチ、自然への理解を尊重する活動をしている。
日本の養蜂場ではアカシアやレンゲ、トチの樹など蜜源植物となる樹木を栽培している業者もいるが意外と知られていない。

実践報告
~本当に自然の管理保全に結びつくか~
取り組んでいる樹はチウリという。石の多い痩せた土地で生育する。

チウリの種子は燃料・殺虫性肥料、果実は販売可能、種子油、化粧用とくまなく使われている。

ネパールに縁があり **2011 年から実践を始めている。**
2008 年　村人が蜂蜜ビジネス開始。一度植樹を学ぶも失敗して頓挫。
2011 年 3 月　村に入り植樹についてインタビューを行った。「植樹はもうしないのですか？」
「毎回植樹しようというから、だんだんと実際に必要だと思うようになったよ」
2013 年 12 月　「植樹を始めたよ」と連絡があり、見学に訪問。畑を借り出し育苗開始。
2014 年 7 月　キーパーソンたちが植樹講習会や農業研修に自ら参加。国連の支援を得て苗を購入。村人で一斉に植樹。
2015 年　　2014、2015 年と 8,000 本植樹。

養蜂を通した自然保全で注意すること
1)モノカルチャー型産業では自然保護とはいえない
　→　生物多様性を念頭においた植生にて保全活動を行うこと。
2)土着ミツバチと西洋ミツバチとのバランスを

3)西洋蜂の病気管理は適正な管理を

→　西洋蜂は病気管理に医薬品を使う場合がある。使い方を適正に。

4)趣味養蜂での注意

→　蜜源は有用な資源。商業養蜂家の妨害にならないこと。

養蜂と環境教育 ESD

受粉という活動についての動植物の関連性や昆虫類への理解を促進。

農薬使用と昆虫類の関係や、オーガニックの意義などを理解。

養蜂がもつ幅広い社会関係にきずく

生物多様性保全、食育、貧困撲滅、伝統文化、美容、健康・医療

国連での持続可能な開発目標　SDGs－養蜂の役割

この 17 の目標の中で 12 項目が養蜂にかかわる

目標1. すべての場所における、あらゆる形態の貧困の解消

目標2. 飢餓の終焉、食糧安全保障と栄養の向上の達成、持続可能な農業の促進

目標3. あらゆる年齢のすべての人に対する健康な生活の確保、福祉（well-being）の促進

目標4. すべての人に対する包括的、公正かつ良質な教育の確保、生涯学習の機会促進

目標5. ジェンダー平等の達成　すべての女性および少女のエンパワーメント

目標6. すべての人に対する、持続可能な水源と水と衛生の確保

目標7. すべての人に対する、手頃で、信頼ができ、持続可能で、近代的なエネルギーへのアクセスの確保

目標8. 継続的、包括的かつ持続可能な経済成長、すべての人に対する完全かつ生産的な雇用と適切な雇用（ディーセント・ワーク）の促進

目標9. レジリエントな（回復力のある）インフラの構築、包括的かつ持続可能な産業化、およびイノベーションの促進

目標 10. 国内および国家間の不平等の削減

目標 11. 包括的、安全、レジリエント、かつ持続可能な都市および居住区の実現

目標 12. 持続可能な消費および生産形態の確保

目標 13. 気候変動およびその影響と闘うための緊急の行動（付記：気候変動に関する国際連合枠組条約が、気候変動に関する政府間協議の優先的な場である）
目標 14. 持続可能な開発のための海洋、海浜および海洋資源の保存および持続的な活用目標

目標 15. 陸圏生態系の保護、回復および持続可能な活用の促進、森林の持続的な管理、砂漠化への対処、土壌侵食の防止および転換、生物多様性の損失の防止
目標 16. 持続可能な開発のための平和でインクルーシブな社会の促進　、すべての人に対する公正へのアクセスの提供、あらゆるレベルで効果的かつ責任を伴う、包括的な公的機関の設立
目標 17. 持続可能な開発のための実施手段の強化および、グローバルパートナーシップの再構築

(質問)
・チウリの殺虫性について―チウリにはサポニンが含まれていて魚など死ぬことがある。
・蜂蜜は花によって香りが違うのか－蜂蜜はそれぞれ違う
・チウリはネパール地方だけなのか－土着ミツバチと西洋ミツバチの数は－養蜂が盛んなところは西洋ミツバチが多い。ネパールは土着ミツバチの方が多い。西洋ミツバチの方が蜜の収量は多い。
・蜂蜜は種類によって固まりやすいのか－花粉が多いと核になって固まりやすい。また、ブドウ糖と果糖では果糖が多いほうが固まりにくい。
－土着ミツバチは生態系のバランスの中で敵味方がある。びわ湖でも外来魚が入ってくると敵がいないので増えてしまう。今の時代は土着の生きものを守っていくということ。生物多様性です。
―西洋ミツバチは乾燥した外敵の少ない土地で生まれているものなので、日本ではスズメバチなどへの対処方法が無いので、人が守らなければならない。

試食タイム
チウリの樹からとった蜂蜜の試食

記念撮影

(参加した、びわ環サークル員の感想)

・楽しい雰囲気の中、質問も多くあり良かった。

・蜂蜜について良く理解できた。特にネパールにおける経済的自立に役立っている。 生物多様性を考慮している。

・良かった。

・蜂蜜の話が楽しかったです。

・養蜂による自然保全に関心を持つことができた。 蜜蜂の受粉活動に興味がわいた。 蜂蜜の効能の知識を得ることができた。

・蜜蜂の生態について深く聞きたかった。

・蜂蜜で生活ができるか。私の近くでは、商業とせず、 みんな楽しんでいます。

・チウリがネパールの地域の木で、それと蜜蜂、蜂蜜、人との係わりの話が 今後どのように進展するか、興味深い。

あと、補足として、びわ環サークル員だけでなく、地域の人達も参加した、このような企画はテーマによっては良いのでは、という意見が多かった。